

～学校・家庭・地域で通じ合う心～

協働通心 協働通心

平成30年度

第5号

発行元

草津市教育委員会

生涯学習課

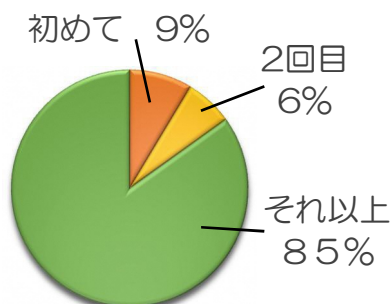
木枯らしが吹くと首をすぼめてしまう、そんな季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。去る11月1日に地域協働合校研修会を開催いたしましたところ、小中学校、PTA、地域まちづくり協議会、地域まちづくりセンター、地域コーディネーター等、43名の参加がありました。



講演では、立命館大学 学長補佐 BKC地域連携室長 スポーツ健康科学部教授 岡本直輝先生に「大学から見た地域づくり～人生100年時代を迎え～」をテーマにお話ししていただきました。学校や地域の活動において、学生に支援してもらおうという意識ではなく、地域が先生として「学生を育てる」意識を持つことで、お互いがwin-winな関係で連携できること、また、これから移り変わる世の中の課題等、御教授いただきました。

分散会では、講演を受けて、「学生が日頃、学び取り組んでいることを発揮できる、学生の成長につながる連携をしていきたい。」「子どもたちは、行事で学生に触れ合うことを楽しみにしている。」「学生には、できるだけ地元で力を発揮してもらいたい。」「学生だけでなく、企業も意欲的に参加していただけるので、新しく開拓、連携を深めていきたい。」等、たくさんの情報交換、意見交換をしていただきました。

この研修会に先立ちまして、学校の地域協働合校に支援して下さる地域ボランティアの方々アンケートを依頼し、93名の方から御回答をいただきました。



左のグラフからもわかるように、同じ方に何度も支援していただいております。支援のきっかけの問いでも「毎年参加しているため、今年も同じように参加した」が一番多かったです。

また、きっかけの問いの「その他」を回答した半数の方は、「知り合い、友達、先輩から誘われて参加した」とのことで、支援していただく方々を増やすには、広報活動を続けつつ、地域協働合校の良さを経験者から伝え、広めていただくことが

大切さであると再確認いたしました。アンケートで課題として挙げられた内容は、苗を植える、稲を刈る等の一部分を体験するだけではなく、作業工程にある苦労、難しさ、きめ細やかな動き等も一緒に活動し学ぶことが必要であること、また、子どもたちが企画運営できるような、自主性を養う活動が必要であることでした。

**今回挙げていただいた課題
を取り入れ、より充実した学
びの多い活動にしていくよう
アイデアを出し合いましょう。**